

平成29年度 植物研究室 学会発表一覧

	発表学会等	開催日時	演題	要旨	演者 (※:筆頭演者)
1	日本雑草学会第56回大会	2017年4月14日 ~16日	絶滅危惧1B類アゼオトギリの水田畦集団と河川敷集団の遺伝的構造と環境応答性	絶滅危惧植物アゼオトギリの複数集団における遺伝的多様性、光・水分に係る環境応答性、生活史可塑性について報告した。	※古田誉裕・岸駿佑・ <b>赤井賢成</b> ・水口亜樹・藤晋一・中浜直之・運浦義之・堀内洋二・古市貴之・石井正人・松島宏・吉岡俊人
2	沖縄生物学会第54回大会	2017年5月20日	沖縄県の水田とその周辺に生育する絶滅危惧植物の現状	沖縄県の水田とその周辺に生育する絶滅危惧植物の種類、生育状況等について報告した。	※ <b>赤井賢成</b>
3			モロコシソウの芳香成分と防虫成分の分析	沖縄で古くから芳香剤や防虫剤として利用されてきたモロコシソウの成分分析の結果について報告した。	※ <b>遠藤達矢</b> ・高良亮・ <b>熊原礼乃</b>
4	植物地理・分類学会2017年大会	2017年5月27日 ~28日	福井県RDB更新作業への協力で明らかになった福井県の植物相に係る新発見	福井県RDB編纂において明らかになった福井県新産種等について報告を行った。	※ <b>赤井賢成</b>
5	日本植物園協会第52周年記念大会	2017年6月7日 ~9日	「ため池秋植物」(Autumn pond ephemeral)の提唱-早急な分類学的・生態学的研究と保全の必要性-	秋期以降、落水後のため池の池底に発生する一群の植物群に未記載の植物が多く、更なる研究が必要であることを報告した。	※ <b>赤井賢成</b>
6	XIX International Botanical Congress	2017年7月23日 ~29日	Phylogenetic and Taxonomic Study of <i>Leptopetalum biflorum</i> (Rubiaceae)	ソロモン諸島等で採集したアカネ科ソナレムグラ類の分子系統解析を行った結果を報告した。	※A. Naiki・ <b>K. Akai</b> ・H. Kato・Y. Komaki・K. Mizunashi・T. Ohi-Toma
7	日本植物学会第81回大会	2017年9月8日 ~10日	福井県・石川に固有分布するエチゼンダイモジソウの集団遺伝構造	福井県・石川県に生育する絶滅危惧植物エチゼンダイモジソウの複数集団における遺伝的多様性について報告した。	※孫田佳奈・ <b>赤井賢成</b> ・阪口翔太・瀬戸口彰
8	日本ウエルネス学会第14回大会	2017年9月23日 ~24日	植物によってオフィスワーカーのストレスは改善できるのか -沖縄県A組織のオフィスにおける意識調査-	オフィスで働く人のストレスを植物によって改善することを目指し、予備的な調査としてオフィスワーカーのデスクに植物(インドアグリーン)を配置し、取り組みについての意識調査を報告した。	※ <b>遠藤達矢</b> ・下地紀晴・前川美紀子
9			オフィスワーカーのストレス軽減策の提案に向けて -沖縄県A組織のオフィスでの植物を用いたストレス改善調査-	沖縄県内の組織のオフィスで働くオフィスワーカーを対象とし、植物(インドアグリーン)がオフィスワーカーのストレスに与える影響と、オフィスワーカーの心身の状態についての調査について報告した。	※下地紀晴・ <b>遠藤達矢</b> ・前川美紀子
10	日本植物分類学会17回大会	2018年3月7日 ~10日	海外に多個体が生育する国内希少野生動植物種の保全ゲミクス -ナガミカズラ、ヤドリコケモモ、サガリランの比較解析-	南西諸島に生育する絶滅危惧植物のうち、海外では多くの個体数が生育する種を対象に、両集団の遺伝的多様性等を比較した結果を報告した。	※井笠裕司・芝林真友・栗田和紀・横田昌嗣・ <b>阿部篤志</b> ・ <b>赤井賢成</b> ・國府方吾郎・長澤淳一・志内利明・市河三英・橋本季正・遊川知久・阪口翔太・寺峰孜
			ユキノシタ属ユキノシタ節 (Sect. Irregulares) の系統分類と生態的特性の多様化	ユキノシタ科ユキノシタ節の分類学的位置付け、ユキノシタ節内の系統関係、ダイモンジソウの多様化について報告した。	※孫田佳奈・山本将也・阪口翔太・ <b>赤井賢成</b> ・瀬戸口浩彰